



第37号 木曾川町連区



地域づくり協議会だより

【発行日】平成31年4月1日 【発行者】木曾川町連区地域づくり協議会
 〒木曾川町内割田一の通り127(一宮市木曾川庁舎内) ☎84-0005
 【メールアドレス】k-chiiki@orihime.ne.jp
 【ホームページ】http://138kisogawa.org 木曾川町連区で検索してね♪



↑
こちらからどうぞ

できました!! 《ふるさと今昔(いまむかし)》 ~木曾川庁舎とアピタに展示しています~

木曾川町地域づくり協議会では、地域の歴史・文化を次世代に継承する事業として《ふるさと今昔(いまむかし)》の制作に取り組んできましたが、このたびその作業が終了し、木曾川庁舎とアピタ木曾川店にパネル写真を展示しました。

このパネル写真は、かつての小学校の副読本『わたしたちの町木曾川』（昭和40年～平成4年作成）に掲載された写真と現在の姿を対比してみました。内容としては「自然」「社寺・旧跡」「交通・産業」「公共施設」のほか、「昭和初期の雀のお宿」等に関する写真を加えています。木曾川庁舎は南玄関に入って右手奥の壁面に、アピタ木曾川店は2Fフードコート北側の壁面に展示しています。お出掛けついでにご覧いただければ嬉しく思います。

なお、《ふるさと今昔(いまむかし)》はイオンモール木曾川店にも展示することになっていますし、町内小中学校での展示も検討しています。また、冊子として町内全世帯に配布することにもしています。

5. 伊勢湾台風

昭和34年9月26日18時過ぎ、紀伊半島の瀬野あたりに台風15号が上陸しました。中心気圧は945mbで、愛知県下ほぼ全域が風速30m以上の暴風となり、ところにより最大瞬間風速が50m以上という異常的な風速を記録しました。また雨についても1時間に40~60mmの激しい雨が各地に降り、河川は急激に水位を上げ、これと高潮によって河口付近ではいたるところで堤防が決壊、大災害となりました。特に愛知県・三重県の被害が甚大であったため「伊勢湾台風」と名付けられました。

犠牲者は死者・行方不明者をあわせて5,098人、負傷者38,921人、全壊家屋36,135棟、半壊家屋113,052棟、流失家屋4,703棟、床上浸水157,858棟に達しました。犠牲者の数は、阪神・淡路大震災が発生するまで、戦後の自然災害で最多のものでした。とりわけ名古屋西部、海部郡南部などは海面下の土地であったため、海岸堤防が決壊するとひとたまりもなく水没しました。加えて名古屋港の貯木場から流出した木材が高潮に乗って住宅地を襲い、被害を大きくしました。

木曾川町では40人の負傷者のほか、全壊した家が67戸、半壊した家は233戸にのぼりました。また被災地から木曾川町に避難してきた人は30世帯92人を数えました。(数値は木曾川町史による)

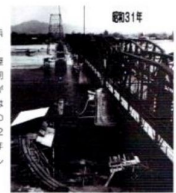
伊勢湾台風による野府川沿いの被害

	死者	負傷者	家屋全半壊	床上浸水	被災人員
木曾川	—	40	252	—	1,669
一宮	15	72	1,191	—	9,631
尾西	3	105	766	166	42,309
江南	8	52	766	—	2,365
稲沢	6	37	607	—	3,420

中日新聞(昭和34.10.3)

15. 木曾川駅(JR)

日本で最初に鉄道が開通したのは明治5年の新橋~横浜間です。この地域では明治19年に熱田~木曾川間が開通。翌20年には木曾川の鉄橋が完成し、ここから大津~名古屋間が開通しました。ちなみに美濃本線が全通したのは明治22年です。それ以降も明治24年に濃尾本線が開通しました。新橋は全線、線路は曲がり、木曾川橋梁は架設という大きな被害を受けました。これらの鉄道施設の完全復旧には6か月を要したといわれています。その後、大正2年までに全線が復旧化されました。なお運転は昭和62年に7社に分社民営化され、当地区はJR東海が継承しました。現在の橋上駅ができたのは平成20年のことです。



ところで、木曾川駅を語るに欠かせないのが「飛染井」です。伊人正徳子嬢は明治24年の夏、木曾を朝日丸乗船から木曾川下りの舟の客となり、北方で下船後、当時の本曾川温泉湯の新店で休憩しましたが、その新店の端をどうしても忘れられなかったという逸話を残しています。木曾川町ではこれを記念して、平成6年、駅に隣接した黒田公園に記念碑を建立しました。



HUGを開催しました

2月9日（土）に木曾川庁舎研修室で「HUG」を開催しました。

HUG（ハグ）とは…

H⇒避難所・U⇒運営・G⇒ゲームの略で、
実際に木曾川町の指定避難所である

- 木曾川中学校
 - 黒田小学校
 - 木曾川東小学校
 - 木曾川西小学校
- の4つの学校で、

それぞれの地区の関係者の方に
実際に災害が起きたことを想定して、
避難所を運営していただきました。



みなさん、いろいろと意見を出し合いながら、次々とやってくる避難者やイベントをこなしていく姿と、実際にこのことを体感していただいていたことが、とても貴重な体験でした。今回は訓練でしたが、これが実際に起こるとなると、多くの問題が出てきます。

避難所が開設される際の鍵の問題や誰が責任者で運営していくのか？ 体育館の収容人数には限りがあるし、食料の配給方法のルールや避難者の登録作業、掲示板のルール、トイレの開設や伝染病対策、プライベート空間のつくり方やペットの問題など…想定されるだけでも、いろいろなことが起こります。



指定避難場所単位でみて数字で表すと避難所で過ごすことのできるのは住民3000人のうち260名程度となるのが現実です。このHUG内の講習でもありましたが、災害時の避難は「自助」が求められます。自分の命は自分で守らなければならないという考えですが、もっと大事にすべきことは、こういう現実を知っておき、いつも備えておくことだと学びました。

今後も木曾川町連区地域づくり協議会安全安心部会では、こういった活動をつづけながら情報発信をしてまいります。

認知症講習会を開催しました

2月16日（土）に「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

昨年度に続き2回目の開催となった今回は、各町内会長や役員を中心に約50名の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

講師は地域包括支援センター「コムネックスみづほ」松井康明さんです。認知症を理解するにあたり、記憶の仕組みから、「もの忘れ」と「認知症」の違い、認知症の種類、それぞれの対応方法などを、様々な事例を交えて、分かりやすく丁寧に教えていただきました。



認知症を理解するために、バーチャルリアリティによる「認知症の方の見える世界」を体験できる取り組みも進んでいて、認知症の人にはどのように見えているかを疑似体験することができました。幻視の症状によって、存在していない「物」や「人」が見えたり、それが突然消えたりする映像を見て驚きました。また別の映像では、電車で居眠りして目覚めたら、自分の居場所や乗り換え方法が分からなくなり、不安に陥っているケースを見ました。今が朝なのか夜なのか、春なのか秋なのかなどの時間や季節の感覚が分からなくなることもあるようです。このようなことが自分の身や家族に起きたら…と考えさせられました。

認知症は、高齢期に誰もがなりうる病気のひとつであり、誰もが関わる可能性のある病気のひとつでもあります。2025年には700万人を突破し、65才以上の5人に1人が罹患するといわれています。

今回のサポーター養成講座を受けて、私達ができることは・・・

- ①認知症について理解し、偏見を持たず、温かい目で見守ること
- ②他人ごとではなく、「自分たち」のこととして認識をもつこと
- ③特別なことをやる訳ではなく、困っている本人や家族、知人などがあれば「気にかける」「声かけする」といったさりげない支援が大切であること

を学びました。また一人で抱え込まず「助けられ上手」になることも大切ですね。



この木曾川町が、誰にとっても住みやすい町となるよう、来年度以降も「認知症サポーター養成講座」を開催し、一人でも多くのサポーターさんを増やしていきたいと思っています。

また来年の11月には木曾川西小学区にお住まいの方を対象に、認知症高齢者への「声かけお助け隊」体験を計画しています。8月に詳細をお知らせする予定ですので、是非ご参加ください。

身近に認知症をはじめ、高齢者の介護、生活全般でお困りごとがありましたら、市の委託事業である包括支援センター
コムネックスみづほ（木曾川地区担当）に相談することができます。
一人で悩まず相談してください。【TEL 86-5333】

☆☆☆ サロン紹介 ☆☆☆

木曾川ひまわり会は利用者もボランティアも一緒になって、歌ったり、お口の体操をしたり、ゲームや物づくりもしています。

そして、お茶の時間には楽しい会話や笑いがたくさん生まれます。会の終わりには、歌に合わせて手話もします。その結果、脳の活性化にも繋がります。また、会に出かけていただく事により足腰の衰えも防ぎます。



今日は童謡を合唱♪



☆サロン概要☆

名称	木曾川ひまわり会
設立	平成6年
代表者	岩田 清子 (0586) 86-3078
活動場所	西部いこいの家
活動日	第4木曜日
時間	午後1時～3時
ボランティア	11名
参加人数	平均20名(登録者30名)
参加条件	60歳以上で自分で来られる方
活動メニュー	お口の体操・歌(懐メロ・童謡など) 手話・ゲーム・物づくり お茶の時間など



地域づくり協議会だよりを作成しております広報部ではボランティアの広報部員を募集しております!!

- ★記事を書くのが好き
 - ★写真を撮るのが好き
 - ★町内の行事に参加してみたい…などなど
- 年齢・性別は問いませんので、ご興味がある方はご連絡お待ちしております♪



【広報部長】菱川陽子